

過剰繁殖について



① 増えすぎたウサギ



② 過繁殖の元となるトンネル

ウサギは、繁殖能力がとても高く、メスウサギは生後約4ヶ月で性成熟（生まれてから出産が可能となるまでの期間）を迎えます。オスは性成熟が少し遅く、生後7ヶ月ぐらいです。周年繁殖が可能で、交尾排卵動物（交尾刺激により排卵する動物）という特性を持っています。発情期がとても長く、4～17日間の交尾許容期と1～2日の休止期を繰り返します。妊娠期間は30～32日です。

つまり、出産させた複数頭のまだ体格が小さい生後3ヶ月～4ヶ月のメスウサギと周囲のオスウサギ（実際の父親ウサギも含む）の間ですぐに交配してしまいます。1回に4～8頭（半数がメスとすると2～4羽）出産するため、ほぼ同時にすべてのメスが妊娠出産を繰り返し、ネズミ算式に短期間で増えていきます①。

また、雌雄の判別は生後2か月半ぐらいで可能とされている飼育書もありますが、雌雄判別が難しく、雌雄判断する前にすでに妊娠しているケースも多く見られます。

床面が「土」の飼育小屋の場合、ウサギが至る所に巣穴を作り、その中で出産をしてしまうケースも多く見られます②。正確な頭数を把握できず、過剰繁殖に陥るケースもあります。過去の事例では、その巣穴が陥没し、中にいる子ウサギたちが死んでしまい、児童たちがその後始末を繰り返している場面や親ウサギが子ウサギを食べてしまっている場面などもありました。

過剰繁殖について

学校での対応

完全に雌雄判別を行い、分離飼育を実施し繁殖させないことが最も重要です。雌雄がどちらかわからない個体はメスの飼育ゲージに混ぜないことも重要です。床面は「土」ではなく「コンクリート床」などに変更し、巣穴を作らせないことも必要です。

しかしながら分離飼育を継続しているうちに、誤って雌雄が混ざってしまい繁殖してしまう危険性があります。可能ならば不妊手術を行います。不妊手術ができない場合は、識別標識やピアスなどを雌雄判別のために装着し、外見で簡単に見分けられるように工夫するとよいと思います③。



③ 個体識別の識別標識

学校での注意事項

すべてのオスに去勢手術を早期に実施し、完全に繁殖させない状態を作ることが最も良い方法と考えます。すでに過繁殖状態の施設では、里親募集をして適切な数に減らすことも重要です。飼育管理が不十分な場合は獣医師会や近隣の動物病院にご相談ください。

キーワード：過剰繁殖・雌雄判別・去勢手術